

令和8年度 鈴鹿市立大木中学校「学校経営の改革方針」

1 めざす学校像（基本理念）

【学校教育目標】

「生きる力」を身につけ、未来を切り拓く生徒の育成

【めざす学校像】

生徒と教職員の笑顔が通う学校 ～すべての生徒が安心して学べる学校～

2 めざす生徒像

- ・自ら学び仲間とつながり合い、ともに高めあえる生徒
- ・自ら考え、全力で行動する生徒
- ・自らの努力で、未来を思い描き実現するために努力できる生徒

3 めざす教師像

- ・責任感が強く、生徒の人格と個性を尊重した指導ができる教師
- ・社会のニーズを把握し、探究心をもって、自主的に学び続ける教師
- ・豊かな人間性や社会性をもち、家庭・地域等との信頼関係を築く教師

4 経営方針

1 確かな学力の育成

主体的・対話的で深い学びを通じて、1人1台端末を活用したこども主体の授業づくりを実践するとともに、生徒の学習の定着状況を把握し、指導の改善や個に応じた指導を進める。

2 安心して学べる環境づくり

生徒に寄り添いながら粘り強く指導や支援を行うとともに、いじめや差別を許さない姿勢で、一人ひとりの生徒が安心して学べる環境を整える。

3 非認知能力の育成

生徒がありのままの自分が認められていると実感をもつとともに、他者と交わる活動や多様な体験活動を通して「自己肯定感」や「やりぬく力」などの非認知能力を育成する。

4 地域とともにある学校づくり

中学校区の小学校とともに9年間を見据えた一貫教育を推進し、家庭・地域とともにある学校づくりの充実を図る。

5 働きやすい環境づくり

教職員が自らの成長を望み、やりがいを感じられる職場づくりを実現する。

5 今年度の重点取組

1 「確かな学力の育成」の視点での重点取組

- ①「授業力UP5 ☆ver.2」に基づいたこども主体の授業づくりの推進
- ②基礎学力の定着
- ③ICTを活用した家庭学習の充実

2 「安心して学べる環境づくり」の視点での重点取組

- ①互いに認め合う学級づくり
- ②長期欠席生徒の未然防止と社会的自立支援の推進
- ③特別支援教育の視点をふまえた環境づくり
- ④いじめや差別を許さない学校づくり

3 「非認知能力の育成」の視点での重点取組

- ①生徒の主体性を育む活動の充実
- ②日常的なSST

4 「地域とともにある学校づくり」の視点での重点取組

- ①学校運営協議会での熟議
- ②地域づくり協議会との連携推進
- ③校区小学校との協働
- ④防災教育・訓練の推進

5 「働きやすい環境づくり」の視点での重点取組

- ①時間外労働時間の削減
- ②コンプライアンスの推進

6 本年度の具体的行動計画

(1) 確かな学力の育成

- ①「授業力UP5 ☆ver.2」に基づいたこども主体の授業づくりの推進
 - ・教科部会を充実させ、こども主体の授業づくりに学校全体で取り組む。
 - ・全国学力・学習状況調査及びみえスタディチェックの結果分析を全職員が学校の課題としてとらえ、課題改善に向けた授業改善に取り組む。
 - ※全国学力調査の平均正答率 → 全教科全国・県平均以上
 - ※みえスタディチェック正答率 → 全教科県平均以上
 - ※授業改善等に係るアンケート調査（生徒）における設問「自分から進んで勉強に取り組んでいる」 → 肯定的回答割合 80%
- ②基礎学力の定着
 - ・生徒の困り感を把握し、授業の課題が達成できるよう学習を支援する。
 - ・メディアセンターを効果的に活用し、読書活動を充実させる。
 - ※定期考査前の補充学習を毎回2日以上実施する。
 - ※読書週間を2回以上実施する。

③ ICTを活用した家庭学習の充実

- ・ 1人1台端末の活用の幅を広げ、授業と家庭学習のシームレス化をめざす。
※授業改善等に係るアンケート調査（生徒）における設問
「クロームブックを使った家庭学習は学びやすいですか」
→ 肯定的回答割合 80%

(2) 安心して学べる環境づくり

①互いに認め合う学級づくり

- ・ 生徒の実態に合わせて、SST（ソーシャルスキルトレーニング）やグループエンカウンターを取り入れ、自他理解を深める。
- ・ 毎日の生活ノートでのつながりや学期ごとに教育相談を実施する。
※授業改善等に係るアンケート調査（生徒）における設問
「クラスでは、人に対する思いやりが大切にされている」
→ 肯定的回答割合 85%
「困ったことがあれば、学校の先生に相談できる」 → 肯定的回答割合 85%

②長期欠席の未然防止と不登校生徒への社会的自立支援の推進

- ・ 新たな不登校を生まないように「不登校支援初期対応マニュアル」に基づいた対応を徹底する。
- ・ 校内教育支援センター（Sクラス）を活用し、支援体制を構築する。
- ・ 保護者との連携を密にし、外部機関との連携やSC・SSWの活用を図る。
※授業改善等に係るアンケート調査（教師）における設問
「この学校では、生徒指導上の問題に対応するために、工夫、改善を組織的に行っている」 → 肯定的回答割合 100%

③特別支援教育の視点をふまえた環境づくり

- ・ 週に1回支援部会を開催し、困り感のある生徒の情報共有と個別の支援やてだてを協議検討する。
- ・ 必要に応じてケース会議や支援会議を開き、支援に活かす。
- ・ SC（スクールカウンセラー）とともに気になる生徒の行動を観察し、アセスメントを基に効果的な支援につなげる。
※授業改善等に係るアンケート調査（教師）における設問
「この学校では、特に配慮を要する生徒に対応するために、工夫、改善を組織的に行っている」 → 肯定的回答割合 100%

④いじめや差別を許さない学校づくり

- ・ 全教職員がいじめや差別を許さない姿勢で早期発見や早期対応に尽力する。
- ・ いじめや人権問題について、生徒が主体的に考え、行動できる取組を実践する。
- ・ 定期的なアンケートや教育相談を実施するなど、生徒が相談しやすい体制を整える。
※授業改善等に係るアンケート調査（生徒）における設問
「クラスでは安心して学ぶことができる」 → 肯定的回答割合 90%

(3) 非認知能力の育成

①生徒の主体性を育む活動の充実

- ・授業や生徒会活動、委員会活動において、同学年や異学年との交流を通して、互いの考え、多様な考えを交流する場を設定する。
- ・家庭との連携を通して、学校での生活に達成感を持ち、自分に自信が持てるようにする。

※授業改善等に係るアンケート調査(生徒)における設問

「自分には、よいところがあると思う」 → 肯定的回答割合 85%

「自分もやればできるという思いをもっている」 → 肯定的回答割合 85%

②日常的な SST

- ・様々な場面で表現する楽しさを感じ、目的を持って相手にうまく伝えようとする場面を増やし、その姿を積極的に評価する。
- ・授業、行事、日常生活等あらゆる場面で日常的に SST に取り組む。

※授業改善等に係るアンケート調査(生徒)における設問

「クラスの仲間は、わたしのよいところやがんばりを認めてくれる」

→ 肯定的回答割合 85%

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」

→ 肯定的回答割合 95%

(4) 地域とともにある学校づくり

①学校運営協議会での熟議

- ・学校運営協議会委員と生徒が意見を交流できる場を設定する。
- ・学校運営協議会で「生徒の地域への参画」や「学校の在り方」などの熟議を重ね、保護者や地域と連携した取組につなげる
- ・校区CS連絡会議、校区合同学校運営協議会を開催し、校区のめざすこども像や校区の課題などについて協議する。

※授業改善等に係るアンケート調査(生徒)における設問

「地域のいろいろな活動に参加したいと思う」 → 肯定的な回答割合 70%

②地域づくり協議会との連携推進

- ・長太、箕田、若松の地域づくり協議会と連携し、地域人材の活用を図る。
- ・学校図書館や会議室の地域活用を推進する。

③校区小学校との協働

- ・校区でめざすこども像の実現に向け、校区小中学校で9年間の一貫教育を推進する。

※校区校長会を年間6回開催する。

※8月に校区合同研修会を開催する。

※オンライン等を含めた小中の専門部会を年3回程度実施する。

④防災教育・訓練の推進

- ・防災カルテ等の作成、防災教育の年間計画や避難行動等のマニュアルを見直し、実効性のある避難訓練を実施する。
- ・校区小学校と連携した津波避難訓練（1年生）を実施する。
※授業改善等に係るアンケート調査（保護者）における設問
「学校は、防災や防犯、事故防止によく配慮している」
→ 肯定的回答割合 95%

(5) 働きやすい環境づくり

①時間外労働時間の削減

- ・「定時退校ウィークの設定」、「留守番電話の設置」、欠席連絡システム「tetoru」など校務DXを活用して、時間外労働時間の削減を図る。
- ・会議の効率化をめざし、時間短縮と協議の質の向上を図る。
※設定した日の定時に退校できた職員の割合 100%以上
※部活動休養日を計画通り実施した割合 100%以上
※放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 100%以上
※年360時間、月45時間を超える時間外労働者 0人
※1人当たりの月平均時間外労働時間 30時間以下
※1人当たりの年平均休暇取得の目標日数 23日

②コンプライアンスの推進

- ・声かけやコンプライアンス研修を実施するなど、風通しのよい職場環境をめざす。
- ・人材育成を中心にOJTを推進する。
※授業改善等に係るアンケート調査（教師）における設問
「この学校では、生徒指導や授業の問題点について、校内の先生から率直な指摘や有益な意見を聞くことができる」 → 肯定的な回答割合 100%
「この学校の先生は、先生同士が互いに信頼し合っている」
→ 肯定的な回答割合 100%